

第3号

青年技術士に期待する

柏原 公二郎 (応用理学部門)
(株)昭和ボーリング

私は毎年催される長崎県技術士会の総会後の懇親会を楽しみにしている。久しぶり先生方にお会いし酒を酌み交わしながら互いの健康を祝し、再会を約束する。

お話する先生の中に何時もいきいきと輝いている方がいらっしゃる。話を伺ってみると先生には自分なりのテーマがあり日頃から探求に努力していらっしゃるそうだ。

目的に向かって進む。

自分の手法で、しかも自分の時計で・・・。

物事を探求する姿 (雰囲気とでも言おうか) はとても美しく輝かしい。

そういう人は若く活力に満ちている。

青年技術士はこのようにあって欲しい。

最近の朝日新聞コラムに気に入った詩が紹介されていたので、これを引用する事により青年技術士の先生方へ送る言葉に代えさせていただきたい。

「年を重ねただけでは人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」 サムエル・ウルマンより。

技術士になって考えること

上戸 好美 (金属部門)
(三菱重工業(株)長崎研究所)

1. 技術士になって

私は平成11年度金属(加工)部門の企業内技術士に合格させていただきました。

これまで、各種会合(日本技術士会 九州支部 長崎支部)や生涯教育の一環でのミーティングに参加させていただきました。

最近、企業家育成の早急な要求の高まりや国による支援など盛んですが、企業内技術士としての活動は皆無に等しいと考えます。必然的に個人的努力として休み中に活動する程度のボランティア活動と言った状況です。

社内でも、一応形式だけの名簿集約はあってますが、特典もなく、今後の企業における社会的貢献の一環として、どのように協力していくか企業活動とのマッチング合意作りが重要と考えます。

2. 技術士としての抱負

私の抱負は、他の会員の皆様と同様だと思いますが、

(1) いかに社会、国の奉仕者として協力ができるか、個人なりの活動計画を策定していく必要がある。

(2) できれば企業活動と技術士会活動がマッチングできるよう方向性を見出す。

(3) 今後、国際的な日本の貢献が要求され、ISO問題や環境問題への技術対応、工場の海外移転に対応できる国際的な視野での公的資格が必要である。と考えています。

3. 長崎県技術士会に望むこと

技術士会には以下のことを望みます。

(1) 全体会合については長崎市内も含む便宜な場所の設定

みます。

(2) 各種の技術力向上のための講演会が少なすぎ、日本技術士会とタイアップした長崎での会合もしてはどうかと考えます。

(3) 会合内容が建設系に片寄りすぎの傾向がある。その対策として、異業種の方々、例えば情報医学、化学、経済などの専門家を招聘する。例えば長崎大学、総科大、シーボルト大などを考えてはいかがでしょうか。

4. その他

今回、自己紹介させていただく機会を与えていただいた長崎技術士会の方々へ感謝申し上げます。

今後、長崎県への提案など新技術についての企画造りや企画提案などする企画テーマ会議など実施してはいかがかと考えます。また、中小企業、工業技術センターの方々も入れ、若い技術者(非会員でもよい)を教育する場をつくってはどうでしょうか。

以上、勝手なお願いを致しました。今後、益々会の発展につながればと考え、感謝申し上げます。

敬具

技術士になって

中村 昇 (農業部門)
(長崎県諫早農村整備事務所)

私が技術士に受験することになったのは、「池松先輩の強い勧めがあったこと」、「自分自身が土地改良事業団体連合会に出向していたときのプロジェクトの中で技術士の取得を重視したこと」、「長崎県の人材育成計画の中で技術士の取得が奨励されていたこと」がきっかけでした。

最初の挑戦は平成12年度でした。今から考えると全く、受験の準備が出来ておりませんでしたので、見事に不合格でした。2度目の翌年には、かなり準備を行いましたが、合格ラインに到達できませんでした。

3度目の14年度になって初めて、合格するためには何が必要かということが、何となく解り始めてきました。これまで指導して頂いた技術士の皆様には、頭の固い私の修正を含めて、大変なご苦労をおかけ致しましたが、おかげさまで筆記試験に合格致しました。様々な方からお祝いの言葉を頂きましたが、それがかえって口頭試験のプレッシャーとなりました。しかし、その時もまた救いの神が現れました。一足先に合格した同期入庁の方から、その時の資料をそっくり頂きました。それからはその資料を基に、自分の論文を最初から勉強をやり直し、又自分の過去体験のうち大切なものを再整理致しました。

お陰様で、口頭試験では技術士にふさわしいと思われる体験を落ち着いて回答することが出来ましたが、「最近の問題」についての質問には、十分答えることが出来ませんでした。このため、半ば諦め半ば期待の気持ちが入り交じり、最終発表までは大変心配致しました。

と土日など企業内技術士の活動しやすい日時の設定を望
試験官、指導してくださった方々及び応援して頂きました皆様に、本当に感謝致しました。

現在は、皆様に直接恩返しが出来ないので、代わりにといつては変ですが、先輩の「技術士一次試験の研究会」のお手伝いをしております。情報収集、問題作成と解答、そして解説の作成は大変ですが、自分の勉強になっております。幸せ、幸せ、自分が一番得しているようです。

私でも合格したのが刺激になって、多くの仲間が学んでいます、全員の合格を祈ってお世話をしています。

長崎県技術士会に望むこと

黒田 智（建設部門）
(長崎市役所)

昨年、10年間勤めていた民間の建設会社をやむなく退職し、官庁職員となりました。気がつけば、インハウスエンジニア兼マニュアルエンジニアとなりつつある私にとって、プロフェッショナルエンジニアとしての集団である長崎県技術士会への期待は大きいものがあります。

私は民間時代、東京にて、専門（道路）とするいくつかの協会の部会であるワーキンググループや勉強会に所属していました。そこでは、国・都・自治体の官庁職員、国立・私立の大学の先生、民間企業の技術者の若手有志が、それぞれの仕事を終えた夕刻から手弁当で集まり、それぞれの職場を離れた一技術者としてテーマに取り組んでいました。協会の会議室を追い出されれば、今度は終電まで、アルコールの入った技術談義となりました。日本の話題では物足りなくなると、今度は皆で海外へ繰りだしました。道路技術の先進である欧州の姉妹協会・国立研究所・大学を訪問し、そしてそこでもアルコールの入った技術談義となりました。今思えば、技術士という称号を知り、試験に關する多くの情報を得たのもこれら産学官の集まりでした。それ以上に、これらの集まりは、技術的知見の涵養と技術者倫理、技術的事項の説明責任を果たすコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、そして技術者としての基本的な人格の形成、人脈の構築といった修習の一過程に大いに寄与していたことは言うまでもありません。

今回、この特集により、はじめて「青年技術士」ということばがあることを知りました。青年技術士、なにか青臭いながらも実にいい響きと動きを憶えます。早速、インターネットで検索してみると、日本技術士会の委員会である「青年技術士懇談会」のサイトに行き当たりました。長崎県技術士会においても、無理に背伸びすることなく、それぞれの立場を離れた一人の技術者として忌憚のない談義を交わし、時にはベテラン技術士の一喝とご指導を受けるといった若手の新たな活動の場があって面白いかもしれません。

最後に、早くも第3号にて若手へ執筆する機会を与えて頂いたことに感謝するとともに、この機会を若手へのエールと捉え、今後、会への積極的な参加を考えております。

研修委員会便り

①10月25日（土）13時30分より長崎県勤労者福祉会館5階講堂にて、佐賀県技術士会と共に「神の島・四郎島大砲台場」の調査に関する報告会を開催します。

だから合格発表を確認した時の喜びは一しおでした。

報告会を成功させるために会員、そして、ご家族、知人等多くの皆様の参加をお願いします。

詳細は別途資料をご参照下さい。

②11月29日（土）13時30分より佐賀県武雄市で佐賀県技術士会の研修会が開催され、長崎県技術士会より山口和登技術士が「最近の温泉事情」について講演されます、多くの皆様の参加をお願いします。

参加ご予定の方は下記、大橋までご連絡下さい。

③「長崎県社会基盤維持管理研究会」～技術士会が法人会員として入会出来ないか問い合わせていましたが、技術士会としての入会は出来ないとのことです。

入会希望者は会社法人か個人会員としての入会をお願いします。

④会員の皆様への連絡はE-mailを活用したいと考えていますので、長崎県技術士会員名簿のメールアドレスの変更又は新規アドレスのある方は下記、大橋までご連絡下さい。

編集後記

創刊号の発行から早や6ヶ月が達ち第3号の発行時期となりました。今回は、青年技術士の特集として最近技術士になられた方々と、先輩の青年技術士に対する期待として、原稿をお願いしました。

貴重なご意見等を寄せていただき感謝いたします。

皆様のご要望等は今後の会の運営に活かすように努力して行きたいと考えています。

若手の技術士の皆様には、これから長崎県技術士会の運営に当たって重要な役割をお願いすることになりますので、宜しくお願いします。若手の皆様の積極的な参加・活動があって初めて会としての活動が活性化するものと考えます。

次回は、独立されているベテラン技術士の皆様の活動状況、今後の計画、アドバイス等について執筆をお願いする計画です。ご協力をお願いします。

機関誌の発行等は、継続が重要であり、回を重ねながら、より充実した機関紙にしていきたいと思います。

最後になりましたが、事務局長としてお世話をお願いしていました、木下様が会社を退職されました。長い間のご功績に感謝申し上げますと共に今後のご健勝を祈念いたします。尚、後任の事務局長については現在、関係者で相談中です。

今後は、会員皆様の要望、意見、各種情報等は下記までお寄せください。

今後の皆様のご健闘を祈念して筆をおきます。

（社）日本技術士会九州支部 長崎県技術士会
に関する連絡先

西日本菱重興産株式会社 土木部
大橋 義美

〒852-8136

長崎市神の島町3丁目9番9号

TEL 095-865-5200

FAX 095-865-5880

E-mail : yoshimi.ohashi@west-ryoko.co.jp

平成15年10月1日

長崎県技術士会会員各位

長崎県技術士会 会長 犬束 洋志
研修委員長 小松 和彦

研修会のご案内

会員の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、下記のとおり、研修会を開催いたしますので多くの皆様のご参加をお願い申しあげます。

長崎港の入り口に設置された、神の島・四郎島の大砲台場の現地調査に着手したのは、昨年の平成14年度からでした。これまでに、四郎島の地権者・神の島の住民の多くの方々のご協力・ご支援をいただきまして、現在も順調な調査を進めています。

今回、これまでの調査の経過報告を下記のとおり実施することにいたしました。

研究成果の報告であり、興味ある話が聞けるものと考えています。

今回の、研修会は一般の市民の皆様への、研究報告を兼ねていますので、ご家族、知人の皆様もお誘いあわせの上ご参加いただきますようにご案内申し上げます。なお、参加費用は無料です。

記

幕末佐賀藩の長崎警備について（研究報告会）

研究報告 「幕末佐賀藩の長崎警備について」

長野 還 氏（九州国際大学教授）

「神の島・四郎島の台場の調査」

原田 彰 氏（NPO 法人技術交流フォーラム副理事長）

日 時 平成15年10月18日13時30分から16時まで

場 所 長崎県勤労福祉会館 講堂
長崎市桜町9-6 (TEL 095-821-1456) 長崎市役所別館の裏です

主 催 文部科学省・特定領域研究「江戸モノづくり」佐賀班
佐賀大学
長崎県技術士会

連絡先 長崎県技術士会 大橋 義美
勤務先 西日本菱重興産株式会社 土木部
TEL 095-865-5200
FAX 095-865-5880

—以上—

長崎県技術士会会員各位

どなたでも参加出来ますのでご案内いたします。・・長崎県技術士会研修委員会

各 位

第43回勉強会「ジオラボ」のご案内

主催：(社)地盤工学会九州支部

長崎地盤研究会

日 時：平成15年10月10日（金）13：30～17：00

会 場：会場：センチュリーホテル6F 伊勢の間

（長崎市目覚町1-26、TEL 095-846-2222）

駐車場：ホテル内駐車場あり（300円、満車の際は周辺の一般駐車場利用となります）。

参加費： 1,000円 （資料代含む）

話題提供： 13：30～16：00

①ため池ヘドロの有効利用について

中山 稔（香川大学工学部）

【概要】長崎から香川に来てまず驚いたのは「ため池」の多さである。香川県内には1万5千もの「ため池」がある。これらのため池に堆積する底泥（ヘドロ）も莫大な量である。自然廃棄物の建設材料への有効利用という見地から、ため池ヘドロに関するいくつかの話題を述べるとともに、豊島の産業廃棄物問題や海砂採取禁止に伴う代替材など、香川県を中心とした四国の地盤環境問題について話題提供を行うものである。

②九州の特殊地山のトンネル施工について

山戸 隆秀（日本道路公団九州支社沖縄管理事務所）

【概要】橋梁と並んで道路構造物の代表とされるトンネルの建設は九州地方においても近年ますますその設計、施工の多様性が増しつつある。特に、ルート選定や土地取得上の制約で、やむを得ず膨張性地山や軟弱地山で施工を行う場合が増え、覆工コンクリートのひび割れ発生や盤部膨れなどのトンネル変状を遭遇することが多々ある。日本道路公団では、特殊地山の施工技術と変状対策工が開発され、九州地区のいくつかの現場で効果的に活用されてきている。施工と対策事例の一部を紹介し、話題提供をしたいと考えている。

長崎地盤研究会： 16：00～17：00

懇親会：18：00～（場所：センチュリーホテル内、会費6千円程度）

申込み締切り：平成15年10月8日（水）までに、下記宛先まで、氏名、勤務先、同住所、同電話番号、同FAX番号を明記の上、FAXもしくはE-mailにてお申し込み下さい。

申込み・問合せ先：〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学工学部社会開発工学科 立入 郁

TEL：095-819-2616, FAX：095-819-2627 E-mail：tachiiri@civil.nagasaki-u.ac.jp

※ 地盤工学会継続教育参加証を発行いたします。